

# サブスクリプション ガバナンス戦略を作成する

100 XP

3 分

Azure のデプロイの計画と検討に関するモジュールでは、Azure でのリソースの組織構造には管理グループ、サブスクリプション、リソース グループ、リソースの 4 つのレベルがあることを学習しました。

どのようなクラウド ガバナンスの実装でも、最初に、ビジネス ニーズに合ったクラウド組織構造を明らかにします。このステップには、多くの場合、"クラウド技術拠点チーム" ("クラウド実用化チーム" または "クラウド カストディアン チーム" と呼ばれます) の編成が含まれます。このチームは、組織全体に対する一元的な場所から、ガバナンス プラクティスの実装を支援します。

多くの場合、チームはサブスクリプション レベルで Azure ガバナンス戦略を開始します。サブスクリプションを作成して管理するときに考慮する必要のある 3 つの主要な側面として、課金、アクセス制御、サブスクリプションがあります。

これらの各側面についてさらに詳しく見ていきましょう。

## 課金

サブスクリプションごとに 1 つの課金レポートを作成できます。複数の部門があり、クラウド コストの "チャージバック" を行う必要がある場合、1 つの解決策として、部門別またはプロジェクト別にサブスクリプションを編成することができます。

リソース タグも役に立ちます。タグについては、このモジュールで後ほど説明します。必要なサブスクリプションの数と名前を定義するときは、社内の課金要件を考慮します。

## アクセス制御

サブスクリプションは、Azure リソースのデプロイ境界です。すべてのサブスクリプションは、Azure Active Directory テナントに関連付けられています。各テナントを使用することで、管理者は、Azure のロールベースのアクセス制御を使用して定義されたロールを介してアクセスをきめ細かく設定できます。

サブスクリプション アーキテクチャを設計するときは、デプロイ境界の要因を検討します。たとえば、開発用と運用環境用に個別のサブスクリプションが必要ですか。個別のサブスクリプションを使用すると、それぞれに対するアクセスを個別に制御し、リソースを互いに分離できます。

## サブスクリプションの制限

サブスクリプションには、リソース制限もいくつかあります。たとえば、サブスクリプションごとのネットワーク Azure ExpressRoute 回線の最大数は 10 です。設計フェーズでは、それらの制限について考慮する必要があります。それらの制限を超える必要がある場合は、さらにサブスクリプションを追加することが必要になる場合があります。ハード制限の上限に達した場合、それを柔軟に増やすことはできません。

サブスクリプションの管理には、管理グループも使用できます。管理グループを使用すると、複数の Azure サブスクリプションにまたがってアクセス、ポリシー、コンプライアンスを管理できます。管理グループについては、このモジュールで後ほど詳しく説明します。